



直接検定牛の調教

ななつかの風～

畜産技術センターニュース

発行事務局
●広島県立総合技術研究所
畜産技術センター技術支援部
〒727-0023
庄原市七塚町584番地
TEL 0824-74-0331
FAX 0824-74-1586

●畜産技術センター研究成果発表会を開催する(12/12)！

畜産技術センター研究成果発表会を三次市四拾貫町にある県立みよし公園カルチャーセンターで『増やそう！飼おう！広島県産和牛』をテーマに開催し、約80名の畜産農家、関係団体、行政機関の方々の出席がありました。

事例発表として、「広島血統和牛増産事業の取り組み」について、畜産課の保本事業調整員に乳用牛を借り腹とした受精卵移植による和牛増産の取り組みを、合同会社向牧場の向氏には「法人化を経験して～神石和牛繁殖肥育一貫経営～」について和牛経営の法人化の取り組みの事例を発表をしていただきました。

当センターからの成果発表は、「広島県産和牛の増産に関わる事業及び育種繁殖研究部の研究」として、育種繁殖研究部の今井主任研究員が種雄牛造成、精液供給、体外受精卵の生産・供給及び広島県産和牛の増産にかかわる研究について紹介を行いました。続いて「県産飼料イネたちすずか」を活用した高品質な県産和牛肉生産技術」として飼養技術研究部の福馬主任研究員が、飼料イネ「たちすずか」の肥育牛への活用について「たちすずか」TMR給与による高品質牛肉生産の研究成果を紹介しました。

参加者を交えた総合討議では、県産和牛増産の現状と課題について討議を行い、「乳用牛への受精卵移植が進んでいる」、「広島県産和牛肉として特徴のある牛肉の開発を進めてほしい」等の意見がだされました。

当日行ったアンケート調査では、畜技センターに期待することとして、「受精卵移植で受胎率を向上させる技術開発」、「TMR給与について繁殖雌牛用・子牛用マニュアルを示してほしい」等の意見があり、今後の参考にさせていただきます。



成果発表



総合討議

● 高糖分・高消化性WCS(飼料)用稲新技術セミナー開催！

当センターでは、飼料イネ「たちすずか」の飼料特性をさらに発揮させることを目指して、西日本農業研究センターと研究を行ってきました。その結果、従来より細かく切断する微細断収穫技術と組み合わせることにより、さらに魅力あるイネWCSの収穫～調製～給与の生産利用体系を確立しました。

この生産利用体系の有効性を多くの関係者に知ってもらい、さらなる普及を図るため、西日本農業研究センターと当センターが主催し、庄原市と庄原地域和牛産地強化協議会の共催により11月17～18日の2日間にわたり現地検討会と室内検討会の構成でセミナーを開催しました。

現地見学会では、今年度発売された汎用型微細断飼料収穫機(ワゴンタイプ)と、ロールベアラ2機種の実機を用いて、微細断収穫から高密度輸送およびロールベール調製を実演しました

セミナーでは、高糖分・高消化性WCS用稲の品種動向をはじめ、新たに開発された高糖分品種向けの乳酸菌製剤や微細断イネWCSの給与技術についての講演を行いました。



微細断収穫機



トラックへの積載



セミナー



ロールベール

● 広島大学留学生視察研修（10月）

メキシコ、中国、タイの出身の広島大学の留学生が、視察研修に畜技センターに訪問されました。視察を受け入れるにあたって、入国して1週間以内は家畜を飼養している場所（衛生管理区域）への入場制限や、また海外で4ヶ月以内に家畜と接した服装での衛生管理区域への入場制限など防疫規程に基づいて事前確認を行い、厳密な防疫体制のもとで視察研修を受け入れています。また畜産技術センター要覧の英語版を作成し、海外からの視察にも対応しています。

みなさんは、とても熱心に受講していました。



採精場での研修



精液検査の研修

● 和牛用TMR生産・利用技術の移転・普及（2月）

和牛用TMR生産・利用のため開発した技術の移転・普及先である全農広島県本部は、動画による技術の紹介を行うことを目的として撮影を行いました。

平成30年1月の和牛用TMRセンター設置に向けて、技術の移転・普及が着実に進んでいます。



TMR飼料を食べている牛の撮影



TMRの原料である飼料用稲サイレージの撮影

● 神石高原町耕畜連携組合視察研修（2月）

神石高原町耕畜連携組合32名が、種雄牛の視察と改良の現状及び飼料用稲の栽培管理についての研修を目的に訪問され、熱心に受講されました。

種雄牛については、歴代の種雄牛の中でも能力が最も優れている「勝白福」、宮城全共で活躍が期待される「3柴沖茂」、「紅勝白」、神石高原町に関係のある検定中の種雄牛などを紹介しました。また、飼料用稲の栽培管理については、「県内の作付状況」、「中生品種の「たちあやか」の栽培における留意点」、「収穫機の違いによるサイレージのでき方の違い」等質問に回答する形式で研修を行いました。「全共が楽しみだ」、「実践的な講義でとても参考になった」などの感想を話しながら、神石牛肉を堪能する昼食会場へ移動するためのバスに乗り込まれました。



種雄牛の視察研修



飼料用稲の栽培管理研修

● 「家畜人工授精師養成講習会」開催（1/30～2/27）

家畜人工授精師養成講習会が1ヶ月間にわたり、農業技術大学校と畜産技術センターを会場として開催されました。受講生は24名で、農業技術大学校生、酪農・和牛繁殖農家の後継者、団体職員などが家畜人工授精師資格の獲得を目指して熱心に受講されました。

当県の畜産を担う人材として活躍されることを期待しています。次回開催は、平成30年度となります。



編集後記：平成28年度最終号となりました。あっという間に1年が過ぎました。

今年度は、総合技術研究所中期事業計画が策定され、基本方針として「顧客のニーズを充足する」ということが鮮明に打ち出されました。この基本方針に従って来年度も研究開発と技術支援を両輪とした活動に邁進したいと思います。……………HY